

説教

義認：その時 - 勝利への戦い

OIC の皆さん、お早うございます。

ローマ人への手紙には、イエスとのより親密な歩みを含む、超自然的な祝福がクリスチャンに与えられていることが明確に記されています。ローマ人への手紙の聖書の教えはクリスチャンがより多くの超自然的な祝福を受けるためには、神は、御霊に一致して歩むことを真剣に選ぶとする心が必要であるという事実を明らかにしています。地上における神の存在をより多く味わうことは、それぞれの人生に対する神の御心に従うことを通してであり、栄光への歩みを強めることでもあります。以前にも説教しましたが—そう、繰り返すことは良い教師であることを祈っているのだが—、御言葉と御霊、御霊と御言葉は、すべてのクリスチャンにこの超自然的な祝福をもたらす神の手段です。

先週釈義した聖句、特に（ローマ 8 章）と（1 コリント 2 章）は、神が今日地上にいるクリスチャンにもっと「栄光の味」を与えようとしておられることを示しています。私は、クリスチャンが地上にいる間に、来るべき栄光を味わうことをもっと求め、期待するように勧めたいです。クリスチャンが栄光を味わうことは、御言葉をはっきり知ることです：義認 - イエスの十字架上の死が彼らの永遠の赦しを買い取ったことです。神の御計画による彼らの義認は、聖書に示されているように、時が始まる前も、今の時にも、時が過ぎ去った過去の罪にも有効です。

クリスチャンの従順な行動、あるいはそうではない行動も、イエスを信じる者に聖霊を通しての経験をより多く与えるという神の主権的選択に関する規則や制限はありません。しかし、（1 コリント 2 章 9 節）によれば、神がこの地上で「天の栄光を味わう」ためには、“神を愛する者のために神が用意されたすべてのもの”という“条件”があります。誰がこの条件に当てはまるかを決めるのは、他のクリスチャンではなく、神です。それは、御霊が神の子どもたちの心を探るからです。あなたがどれだけ“求めている”かにかかわらず—そして私たちは皆、もっと求めることが必要なのですが—今、神の栄光を求めることを恐れないで欲しいです。私は今日のメッセージで、最終的な栄光に向かって地上を突りある勝利的歩みをするために、なぜ神の栄光を味わうことが必要なのかを皆さんにお伝えしようと思います。

先週のこのタイムラインは、（ローマ 8 章 30 節）にあるように、クリスチャンの人生における神の力強い行動を要約したものです。「... 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」今週、私たちはローマ人への手紙の中で、イエスと聖霊によって神から力づけられ、励まされているにもかかわらず

ず、まだ天国には行っていないことを明らかにします。このメッセージのタイトルは「義認」としました：勝利への戦い

## 教訓その1

(1 コリント 2 章 9-10 節) に書かれているように、神は、天のこちら側のクリスチャンに神の栄光がどれ程のものなのかを明らかにされました。：「<sup>9</sup>まさしく、聖書に書いてあるとおりです。『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。<sup>10</sup> 神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。』 私は、クリスチャンが先にある栄光を味わえば味わうほど、この地上で、善戦することができるかと確信しています。

ローマ書を見ましょう。

(ローマ人への手紙 8 章 31 節)：「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」 The Amplified Bible-Classic Translation (AMPC) は、役立つコメントを書いています。(ローマ人への手紙 8 章 31 節 / AMPC)：「では、私たちはこのことに何と答えればいいのか。神がわれわれのためにおられるなら、だれがわれわれに敵対できようか。[神がわれわれの味方であるなら、だれがわれわれの敵になりうるだろうか? ]」では、私たちはこのこと[全て]に何と答えればいいのか。神がわれわれのためにおられるなら、だれがわれわれに敵対することが[できようか。] [神が私たちの味方であるなら、誰が私たちの敵になることができようか。] もし本当の敵がまったくいないなら、使徒パウロは勝利のためにこのような励ましを書くはずがないことに注意してください。使徒パウロは、敵に対して勝利することを恐れたり、疑念を減らすために書いているのであって、霊的戦いが勝利あるクリスチャン生活の事実であるという考えを単純化しすぎないように書いているのです。勝利に満ちたクリスチャン生活とは、古い罪、深い肉と一致するのではなく、御霊と一致して歩もうとする信者のためのものです。

## サタンは、我々の敵であり強敵である

クリスチャンの“敵”について詳しく述べる前に、私たちの内なる敵、つまり勤勉な祈りなしに暴走する私たちの古い性質は、悪魔よりも手強い敵であることを再度強調しておきたいです。とはいえ、私は 20 世紀半ばのイギリス出身の有名なクリスチャン作家、C.S. ルイスの言葉が好きです。「クリスチャンは、悪魔について考えすぎるか、考えが足りないかのどちらかだ」彼は、悪魔と悪霊が、まだ本物のクリスチャンでない若い信者に陰謀を企てるさまを明らかにするために、有名な本『ネジまきどり』を書いたのです。それは、20 世紀のクリスチャンは、「彼らは悪魔について十分に考えていない」というと考えたに違いないのです。

次の釈義では、キリストの使徒として最も影響力のあった二人、パウロとペテロの聖句と体験を取り上げ、この問いに答えたいです：なぜ神の栄光がこの地上に必要なのか？

さて、使徒ペテロは、C. S. ルイスも望んだように、1世紀のクリスチャンたちに「敵」である悪魔と戦う準備をさせたかったのです。（1ペテロの手紙5章8-11節/ Mounce）：「気を引き締めて！（*nepho*/ギリシア語）警戒しなさい！あなたがたの敵である悪魔は、食い尽くすべき者を求めて、ほえたける獅子のように徘徊しています。「<sup>9</sup> 彼 (*antihistemi*/ギリシア語) に抵抗し、信仰を堅固にして、同じような苦しみを、全世界の同胞である信者たちが耐えていることを知っていなさい。<sup>10</sup> キリストにあって、あなたがたを永遠の栄光のうちに召してくださった、すべての恵みの神は、あなたがたを少し苦しめた後、あなたがたを回復し、確かめ、強め、確立してください。<sup>11</sup> この方に、いつまでも力があるように。アーメン」

ここでは、いくつかの言葉を強調しましょう。

1) **気を引き締めていなさい** – ギリシア語の原文では、*nepho*は**明晰な頭脳、用心深い、用心深い**という意味です。オックスフォード言語/Google 辞書の **vigilant** は、「起こりうる危険や困難に注意深く目を光らせる」という意味です。同義語は *watchful*, *on the lookout*, *observant*, *sharp-eyed* です。ペテロがクリスチャンに、この世に「敵」がいることを忘れて欲しくないと願っているのは明らかです。聖書では、敵のことを「中傷者」、「悪魔」、「サタン」、「悪者」と呼んでいます。私たちが良き兵士であることの難しさの一端は、警戒心が私たちを“堅く”あるいは“恐れる”ようにさせることです。クリスチャンが成熟するにつれて、神がサタンにイエスの歩みを正面から攻撃することを許しておられ、そうさせておられることを、しばしば感じ取るようになります。このような激しい戦いの時期は、ある意味では、私たちがその時に感じるよりも危険は少ないかもしれません。ペテロは、イエスの最後の晩餐後の失敗から、悪魔、サタンに対抗するクリスチャンにとって最大の危険は、“眠りに誘われること”であることを知りました。私たちは山頂での経験を恐れているのでしょうか。「聖徒」たちは、1コリント2章9-10節にあるように、やがてこの地に来る栄光を味わうことも含めて、神からの大きな祝福の後では、実際にさらに「眠く」なったり、より傷つきやすくなったりするものだと考えているのでしょうか？ [山頂での経験]とはどういう意味なのか、分かりますか？私たちがときどき経験する、神の栄光やクリスチャン生活における勝利を味わう素晴らしい体験のことです。たとえば、預言者エリヤがカルメル山の頂上で、偽りの神バアルの祭司たちに勝利したときのように。あるいは、今日のクリスチャンが山の上のクリスチャン・キャンプに行き、神の臨在の素晴らしい体験をするときです。このような経験は、クリスチャン生活の試練に備えて私たちを強くするためにデザインされたものです。私たちがここで味わう栄光は、天の父によって、私たちが正しい集中力を保ち、イエスに会うというゴールのために前進し続けるようにデザインされているので

す。「私たちはまだ天国にはいない」と自覚するだけで、山頂での経験は神の目的を達成することができると、私は信じています。神は時々、私たちが神の愛を信頼するために、私たちに「良い気分」にさせるのがお好きです。私たちがそのような「良い気もち」を経験するとき、神は私たちがどのように創造されたのかがわかります。その多くの方法のひとつは、“霊”の体験の中で、ご自身の愛を伝えることです。主は、御言葉の交わりのために、御自身の知性に似た知性を持つように私たちが創造されました。そこで御言葉と霊の相互作用と組み合わせによって、私たちがイエスとのより親密な歩みを生み出すために、御言葉を通して、聖霊の働きによって、神の愛を示されます。

2) 彼に抵抗しなさい-第3ハイライト (1ペテロ5章9節) ギリシャ語で抵抗するという意味の *anthistēmi* は、英語の医学用語 “antihistamine (抗ヒスタミン剤)” に非常に似ています。悪魔と戦うことは冗談ではなく、悪魔という深刻なアレルギーと戦うように、悪魔と対峙すべきであることは間違いありません。イエスの半兄弟ヤコブは、サタンと戦うための簡潔な指示を与えました。(ヤコブ4章7節)：「ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」

20年ほど前、悪魔との戦いがかなり激しかった時期のことをはっきりと思い出します。(ヤコブ4章7節)に、神が、その力は神に比べれば微々たるものであり、小さなものである悪魔を、私から逃げさせる「条件」があることに気づきました！「私は神に服従しているのだろうか？ 私は心配でした！それが神の御言葉の中で見出した条件でした！生まれ変わったクリスチャンであるという自信は、悪魔に抵抗するのに役立っていたのですが、私の人生に対する神の召命に従うことから来る確信を持つまで、それはありませんでした。御霊の剣で悪魔を斬りつけることも含めて。悪魔に抵抗することは、遅かれ早かれ死を招くことは分かっていたけれど。

ブルース牧師、どうすればいいですか？使徒ペテロが私たちの召命に関して与えたリストが参考になります。そのリストは(2ペテロ1章2-11節/BRG)にあります。このリストを勝利のための祈りの焦点にすることをお勧めします。その箇所(2-4節)の詳細は、あなた自身の聖書研究に委ねます。：「5 こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を 6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。8 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。9 これらを備えていない者は、近視眼であり、盲目であって、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れてしまったのです。10 ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。11 このようにあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国

にはいる恵みを豊かに加えられるのです。」（私は11節を天国への栄光の入り口と呼んでいます）。

そう、聖書のこの箇所は、それだけで少なくとも一つの説教になります。しかし、私はこのリストを（ローマ人への手紙8章、特に8.31）の文脈で皆さんと分かち合いたいと思いました。「もし神が私たちの味方なら、誰が私たちに敵対しようか？」そして、聖書のこれらの箇所についての私の個人的な経験もです。

親愛なるOICの聖徒の皆さん、（ヤコブとペテロの手紙二）についての私の説教を待たないでください。約20年前に私がしたように、この2つの聖句からこのリストを見て祈ってください。私の努力を勤勉と呼ぶ勇氣はありませんが、私は（ヤコブ4章7節&2ペテロ1章）から、この二つの質問を真剣にイエスに尋ねました：「私はあなたに服従していますか？そして、「私の」召命と選びを確かなものとするために、主よ、私を助けてください！」

もし20年ほど前に神にこのように祈っていなかったなら、私は今日、イエスの栄光ある福音を宣べ伝えるという素晴らしい召命を受けて、この日本に立つことはなかったでしょう。聖霊によって、神は私の選びと召命を確かなものにしてくださったのです。そう、そしてイエスが私に言われたように、私は日本の人々の魂のために「戦いが肉薄した接近戦」で悪魔と対決することも知っていました。

## 教訓その2

栄光に向かって歩むあなたに、神が何を召されたかを知ることが、サタンや私たち全員が直面しなければならない他の「敵」に勝利する自信を与えてくれます。自分自身と（ヤコブ4章7節と2ペテロ1章）を祈りの中で神のもとに連れて行き、神に尋ねてください：「私はあなたに服従していますか？そして、「私の」召命と選びを確かなものとするために、主よ、私を助けてください！」

1) 苦難 -私たちはローマ8章18節を見ました。：「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。」

使徒パウロは、ローマ人とユダヤ人の手による厳しい苦しみをよく知っていました。先ほど（ローマ8章29-30節）で読んだように、彼は聖霊の啓示における知識と経験についてはっきりと言及しています。苦難の期限を決めてはいけません！ 成熟したクリスチャンは、忍耐の態度を身につけます。苦難の炉の温度をコントロールするのは神の仕事であって、私たちの仕事ではありません。どのような苦しみも、私たちがイエスに会う栄光に至るまで軽減されることがないとするならば、パウロは、厳しい苦しみと、私たちのうちに現される栄光とは比較にならないと確信しています（ローマ8章18節）。パウロは以前（西暦55年）、コリントの信徒たちに対して、

（2コリント4章17節）でよく似たことを言っています。：「今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。」使徒パウロがキリストの苦

難のしもべであったことを示す箇所を思い起こしてみましよう： 鞭で 39 回打たれ、投獄され、石打にされ、難破して 1 日半海に沈んだ。もしパウロが西暦 57 年に OIC ワーシップチームとそこに置かれていたら、彼は私たち全員と一緒に歌っていたことでしょう。イエスに会うとき、すべてに価値があります。パウロはマゾヒストではなかったし、禅仏教徒が信じるような完全な自己卑下の人生も信じていませんでした。パウロは、神が苦しみを許されたのは、この世における「キリストの大義」のためであると同時に、イエスに近づくためであることを知っていました。そうすればパウロは、イエスが、羊たちへの愛ゆえに悪人の手に身を委ねたときと同じ深い喜びを経験することに近づいたでしょう。使徒ペテロは、神に仕えるときと罪を犯すときの苦しみの違いを示しました。(1 ペテロ 2 章 19-21 節/CEV)：「人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。20 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行なっていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」

**2) あなたをキリストにおける永遠の栄光の中に召してくださいました。** ペテ

ロは、天における栄光の「まだない」ことを指し示しています。しかし、ペテロはまた、(1 ペテロ 5 章 10 節)で、苦しみからの一時的な解放も約束としています。：「あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。{つまり、あなたがたを安心させ、強くさせるのです。}

激しい戦いの中にあるクリスチャンは、肉体的あるいは霊的な大きな攻撃の後に、勝利の季節を期待することができます。(1 ペテロ 1 章 1 節)にあるように、ペテロは宣教した世界の広い地域にある多くの教会にこれらの手紙を書きました。：「イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ビテニヤに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、」

この手紙が書かれたきっかけは、ローマから押し寄せる「迫害」の嵐でした。ペテロと他の使徒たちは、世界のあちこちを旅し、おそらく内部情報を聞いていたのでしょう。もちろん、主イエスは、この使徒たちのように聖霊の賜物を受けたすべてのクリスチャンに対して、そのような知らせが起こる前に、多くの超自然的なメッセージ、あるいは預言を与えるでしょう。それはともかく、ペテロは、来るべき迫害に備えさせたかったのです。ペテロはまた、悪質な迫害がローマの気まぐれな皇帝によるものであることも知っていました。「だから、ペテロは、神が“あなたがたが、少し苦しんだ後、あなたがたを回復させ、確かめ、強め、確立してくださる”と書いたとき、偽りの希望を与えたものではありませんでした。」

ですから、ローマ 8 章 31 節のパウロの質問に答えましょう。「悪魔とその使いたち、その悪霊たちです」。Expositor's 聖書注解 (EBC) は、ペテロがクリスチャンに警告したことについて、彼自身が体験したキリストの教えに照らして、正しい見解を示しています。ペテロはイエスの裁判の間、自分はイエスを知らないと主張していました！その時、彼は厳しい教訓を学びました。

EBC のコメントを言い換えれば、次のようになります：「ペテロはクリスチャンに、サタンの予期せぬ攻撃、特に肉体的迫害の脅威に対して警戒を怠らないよう警告しました。イエスを逮捕した当局の手による死への恐れが、ペテロに主を否定させる動機となりました。私たちは、イエスが裏切られた夜、過越の食事の席で、イエスがペテロにサタンの攻撃を警告したことを思い出すかもしれません。(ルカ 22 章 31-34 節)：「**31** シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけてくれることを願って聞き届けられました。**32** しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」**33** シモンはイエスに言った。「主よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」**34** しかし、イエスは言われた。「ペテロ。あなたに言いますが、きょう鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」

イエスは実際、ペテロにサタンの攻撃が迫っていると警告していました。彼は今、イエスが警告したように、ローマから迫害が来ると諸教会に警告しています。(EBC) が指摘したように：サタンが冷酷なローマ兵が与える肉体的苦痛への恐怖を利用して疑いの心をペテロに引き起こしたように、ペテロ自身がそうであったように、教会も主イエスを否定するように誘惑することを知っていました。それで、ペテロは、クリスチャンたちが最悪の事態に備え、信仰を守ることを望んだのです。また、(ルカ 22 章 45-46 節) で、イエスは逮捕される直前、弟子たちに次のように警告しています：「イエスは祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに来て見ると、彼らは悲しみの果てに、眠り込んでしまっていた。**46** それで、彼らに言われた。「なぜ、眠っているのか。起きて、誘惑に陥らないように祈っていなさい。」

聖書は、ペテロが三度主を否定したと伝えていますが、ペテロの罪の経験の中で最も素晴らしかったのは、イエスが彼にこう言われたときでした(ルカ 33 章 32 節)。「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」神は、つまりいた使徒のために御子の祈りに答えてくださいました。今、彼は自分の過去の経験からキリストの憐れみをもって、イエスの羊たちを養い、兄弟たちを強めています。

親愛なる OIC の聖徒の皆さん！イエスは私たちのためにも祈っておられるのです。しかし、ペテロの物語は、ペテロが経験したような恐れと疑いに逆戻りする恐ろしい苦悩を経験するのではなく、耐え忍ぶ覚悟を私たちが持つために聖書に記されているのです。

### 教訓その 3

(1 ペテロ 5 章 8-11 節/マウンス) にある、1)心を慎み、2)彼に抵抗し、3)苦しみを受け 4)キリストの永遠の栄光の中に召された、という聖書のハイライトは、使徒ペテロ、パウロ、ヤコブの箇所です。これらは、(ローマ 8 章 31 節/AMPC) と一致します。 それでは、私たちはこのこと [すべて] に対して何とすべきでしょうか。神がわたしたちに味方されるなら、誰がわたしたちに敵対することができようか。[神が私たちの味方であるなら、だれが私たちの敵になることができましようか。]

このローマ人への手紙第 8 章では、聖霊が私たちのために「内側」で、私たちの頭では言葉にできないような深いうめきをもって、天におられる愛する父への祈りとして祈っておられることが語られています (8 章 26 節)。 私たちはまた、イエスが天において、天の父の右の座で、私たちのために祈っておられることも見ました。

しかし、(32 節) をイエスを信じるすべての人への輝かしい確信として解釈する前に、ペテロが聖霊をいただいているクリスチャンに警告していたことを忘れてはいけません。 あなたはこう言うかもしれません：「ブルース牧師、この日本には私たちを迫害する悪質なローマ兵はいませんよ！」 その通りです。 しかし、私は 1970 年代、当時の鉄のカーテンの向こうにいたソ連出身のクリスチャンたちの証言を思い出します。 彼らがアメリカの私の教会を訪れたとき、牢獄や死の危険を冒して国境を越えてロシアに聖書をこっそり持ち込んだ聖書運搬の人達のことを話してくれました。 神による奇跡によって、国境警備隊が愚かな行動をとり、聖書の山の上に敷かれた毛布の下を見ようとしなかったのです。 しかし、私がこれらの主イエスのしもべたちに最も感銘を受けたのは、私たちアメリカ人に対する配慮でした。 何十年も前の言葉を引用してみましょう：「私たちはあなたがたのために祈ります。あなた方には物理的な迫害はなく、裕福な国です。私たちは、あなた方がサタンの策略に従って、富の欺瞞や物質的な安らぎを失うことを恐れています。日本は経済的に苦しいかもしれないが、物理的な迫害のない地球上のどこでも、悪魔の迫害は、ゲッセマネの園のペテロのように、クリスチャンの信仰を眠らせることができます。

(ルカ 22 章 32 節) でペテロのために地上におられた時と同じように、イエスは天の神の右の座で私たちのために執り成しておられます。

(ローマ 8 書 35 節) : 「私たちがキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」 聖霊、すなわち慰め主が来られたことはよいことです。新しいクリスチャンは、神の愛や栄光を大なり小なり味わった後、神が間違いを犯した人間におけるあらゆる苦難や人間の苦しみから自分たちを守ってくださると考えることが多にしています。私たちはすでに、使徒パウロとペテロが聖書の中で、そうではないという明確な声明を出していることを明らかにしました！ (ローマ書 8 章 36 節) : 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた(詩篇 44 章 22 節)。」と書いてあるとおりです。」「コラの息子たち」によるこの詩篇や歌には、神の民を救い出す力が大きくなったり、小さくなったりするを見ます。

詩篇 44 篇 5 節に「あなたによって私たちは、敵を押し返し、御名によって私たちに立ち向かう者どもを踏みつけましょう。」とあり、そして 15 - 16 節では、神の助けがありません。(15 - 16 節) 「私の前には、一日中、はずかしめがあつて、私の顔の恥が私をおおってしまいました。16 それはそしる者とののしる者の声のため、敵と復讐者のためでした。」使徒パウロは、コラの息子たちと同じ態度でした(詩篇 44 章 17 節) : 「これらのことすべてが私たちを襲いました。しかし私たちがあなたを忘れませんでした。また、あなたの契約を無にしませんでした。」

(ローマ 8 章 31 節) 詩篇 44 篇 16 節) にある、ののしり、ののしる者の声は人間的なものであれ、悪魔的なものであれ、パウロが言いたいのは、クリスチャンに対する迫害があるとき、神は厳しい個人的な困難を許しておられるということです。彼らは、あなたが {神の} 新しい契約であり、彼らの義認であることを偽りなく扱う決意をしなければなりません。新しい契約、信仰による義認です。イエスは天国で執り成し、聖霊(慰め主)はクリスチャンたちを慰め、力づけます。“神は私たちの味方です”と信じ続けましょう。(ローマ 8 章 31 節)

今、パウロはローマのクリスチャンたちに、神の愛は厳しい艱難辛苦を乗り越える以上のことをしてくれると励ましています。(ローマ 8 章 37 節) : 「しかし、私たちは、私たちを愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあつても、圧倒的な勝利者となるのです。」パウロは今、永遠の栄光に向かって御霊の中を歩むという体験的キリスト教から確信したこと、学んだことを表現しています。

ローマ人への手紙 8 章の最後の節は、どこの国でも、特にローマの教養ある読者たちの「人生」に対する大きな挑戦や疑問を扱っているため、細部にわたって、そして明らかに感情的に意図された長い談話となっています。私たちが圧倒的に勝利しているこれらすべての事柄の中に、彼らの懸念はどのようなものがあるのでしょうか？パウロはそれにこう答えています。

(ローマ 8 章 38-39 節) : 「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」

死 - 人類にとって明らかに普遍的な恐怖は「死」です。これは、圧倒的に勝利されたと数えるべきです。最初で最も単純な「敵」です。最初のイースターの朝、天使がマグダラのマリアともう一人のマリアにこう言いました。(マタイ 28 章 5-7 節): 「すると、御使いは女たちに言った。「**6** 恐れはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。**6** ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。**7** ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、」

いのち - パウロは“いのち”を手ごわい“敵”として脇にいます。神は(ローマ 8 章 28 節)で約束しておられます。「そして、神を愛する者、すなわち神の目的に従って召された者には、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

クリスチャンはイエスに属しています。人が「いのち」と呼ぶものは、サタンと罪深い人間たちが陥る迷路、あるいは昆虫が知らずに捕まる蜘蛛の巣のようなものです。しかし、イエスが唯一の真のいのちです。「わたしが道であり、真理であり、命である。わたしを通してでなければ、だれも父のもとに行くことはできない。」

**天使でもなく、主権者でもなく** - サタンの強力なエージェント、悪霊はどうでしょうか。彼は地上に力を持っている、とあなたは言うかもしれませんが。上で見たように、それは真実であり、正しい言葉です。今、パウロは、聖霊の意図と力のもとで、御霊の剣を適用して、年を経た龍の頭を切り裂き、ほとんど落ちそうになるように書きました(ローマ 8 章 38-39 節)。当時のローマのオカルト集団は、墮天使と諸権威の組織の下で、崇拜したり、自分たちを服従させていました。主権者たちあるいは、君主(*arche*/ギリシア語)とは、サタンの王国で大きな権威を持つ霊的存在のことです。エペソ 6 章 12 節)にあるように、*arche* は「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」

天使を意味するギリシア語(angelos)は、実際にはメッセンジャーを意味します。もし人が天使を崇拜するなら、彼らの心の中で“良い”か“悪い”かを問わず、彼らは“墮落した、あるいは悪い天使”を崇拜し、その天使と交わりを持つこととなります。イエスが彼{サタン}に答えたように、「あなたがたは、あなたがたの神である主を礼拝し、主にのみ仕えなければならぬ。多くの場合、彼らは人が気づかないうちに出来事に介入する。悪い」天使たちは、彼らのボスであるサタンからのメッセージをもたらします。主は、ルカが(ルカ 10 章 17-19 節)に記録しているように、次のように言われました。: 「さて、七十人が喜んで帰って来て、こう言った。「主よ。あなたの御名を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。」**18** イエスは言われた。「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。**19** 確かに、わたしは、あなたがたに、蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けたのです。」

だから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。」

このイエスの名による権威は、十二使徒だけでなく、イエスの七十人の弟子たちにも与えられていたことに注意しましょう。反キリストや獣が地上ではほぼ全権を握って放たれる日が近づいている今、クリスチャンがこれと同じ権威を持ってないと考える論理的な理由はありません。使徒パウロは、エペソの教会に対し、これらの霊的な「敵」について積極的に行動するよう、次のように指示している（エペソ 6 章 10 節）：「**10** 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。」

神の武具のまとめ（エペソ 6 章 14-17 節）：真実、神の正しさ、福音書の準備、信仰の盾、そして霊の剣、すなわち神の言葉。私は OIC の兄弟姉妹に、聖書のエペソ人への手紙 6 章を開き、この武具について定期的に詳しく祈るよう強く指導し、奨励します。また、この神の武具とは、悪魔の陰謀に対して堅く立つためだけのものではないことを指摘したいと思います。自分で悪魔に抵抗することができない人々のために、悪魔とその使いたちに対して執り成しをするためなのです。ペテロが自分の幸福だけを考えて、三度も主を否定してつまずいたことを思い出してほしいです。私たちには、“イエスの福音を聞く”ために、サタンの捕われ人をサタンから解放する権威があります。私たちはすでにキリストにあって生まれかわっており、安全です。

さて、ローマでは、異教の神殿や寺院でこれらの墮落した天使を崇拝したり、少なくとも敬意を払ったりしていたクリスチャンたちは、今やこれらの霊的存在に「打ち勝つ者以上」であるという決定的な神の言葉を必要としていました。イエスの霊は、このような悪魔的背景を持つクリスチャンの心を自由にするために、御言葉を通してパウロを鼓舞させました。彼らは、キリストの犠牲による義認が彼らを自由にし、もはやこれらの天使や支配者たちの力の下にはいないことを知る必要がありました！ これらのクリスチャンたちは、サタンの真の力と存在、偽りの偽物の「栄光にあらず」を感じていたのです。今、彼らがもはやこれらの墮落した天使、悪魔、サタンを敬わないので、サタンは、イエスに従うために自分から離れたことに対する報復のため、脅しによって恐れさせようとしてきました。（ローマ 8 章 38 節）は、これらのオカルト集団が見慣れた形式で正確に表現されていました。この聖句、御言葉、そして御霊の力が彼らを自由にしたのです。1973 年、この聖句は私に大きな衝撃を与えました。私は、当時、生まれ変わったばかりのクリスチャンで、占星術に深く関わる魔術師であったため、サタンの脅威から逃れるためにイエスのもとに逃げていました。（ローマ 8 章 38-39 節）と、ローマのオカルト崇拝者についての聖書の脚注を初めて読んだとき、私はこの上ない喜びをもって主を喜んだことを今でも覚えていません。イエスは私さえも愛してくださる！

今あるものでもなく、これから来るものでもなく - 聖書が示すように、神は時の上におられます。それが真実であり、事実であることを知れば、現在も未来も、私たちが神の愛から引き離す

ことはできないことを知るでしょう。私たちは、私たちの罪の問題に対する神の解決策であるイエスへの信仰によって義と認められました。時の上にある神の立場において、私たちは、予見され、定められ、召され、義とされ、栄光を与えられています（「すでに」、そして最高のものであっても「まだ」）。それが神の愛です。

**他のいかなる被造物でもなく**（コロサイ 1 章 16 節/CEV）：「なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。」

「その他の造られたもの」は、イエスによって造られただけでなく、イエスのために造られたものです。その造られたものは、神の愛から私たちを引き離すことのできない「敵」でもありません。しかし、注意しなければならないのは、私たちには必要なもの、愛していると感じるものがたくさんあるということです。アイスクリームやチョコレートを神からの贈り物として愛することは素晴らしいです。しかし、多くの“商売道具”や“仕事道具”は偶像となる可能性があります。大工はお気に入りのハンマー、のこぎり、木の種類を必要とし、持っています。牧師にはお気に入りの聖書、神学書、コンピューターがあります。これらのものはすべて、私たちの王イエスに仕えるために使う「道具」です。神は、神が与えてくださるすべての道具を楽しむために、私たちを自由にしてください。物質主義は、神が道具として意図したものを偶像にしまいます。私たちが王のしもべであることに集中し続けるなら、すべてはうまくいくはずですよ。

## 教訓その1

（1 コリント 2 章 9-10 節）に書かれているように、神は天の向こうのクリスチャンに神の栄光の大きさを明らかにされました。：「まさしく、聖書に書いてあるとおりです。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。」**10** 神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。」私は、クリスチャンが先にある栄光を味わえば味わうほど、この地上での善戦につながると確信しています。

## 教訓その2

栄光に向かって歩むあなたにとっての、神からの召しを知ることは、サタンや私たち全員が直面しなければならない他の「敵」に勝利する自信を与えてくれます。自分自身と（ヤコブ 4 章 7 節と 2 ペテロ 1 章）を神のもとに連れて行き、祈り求めるだけでいいのです：私はあなたに服従していますか？そして、「私の」召命と選びを確かなものとするために、主よ、私を助けてください！

### 教訓その3

(1 ペテロ 5 章 8-11 節/マウンス) より、1) 心を慎み、2) 彼に抵抗し、3) 苦しみを受け、4) キリストの永遠の栄光の中に召された、という聖書のハイライトは、使徒ペテロ、パウロ、ヤコブの箇所です。これらは、ローマ人への手紙の次の節 (ローマ 8 章 31 節/AMPC) と一致します。それでは、私たちはこのこと[すべて]に対して何と仰うべきでしょうか。神がわたしたちのためにおられるなら、だれがわたしたちに敵対することができようか。[神が私たちの味方であるなら、だれが私たちの敵になることができますようか。]

何ものからも私たちを引き離すことのできない神の愛は、約 2,000 年前、イエスの十字架上の犠牲によって示されました。神の全能の力と赦しの賜物は、イエスの十字架のふもとに実際に立った誰に対しても、今も同じです。義認とは、私たちに御子イエスを与えてくださった神の愛と知識に満ちた神学用語です。私たちは今、栄光に向かって歩むための装備を備えている.....神の子が神の子となるのです。私たちは神の武具を持ち、自分自身のために祈ることができない人々の生活の中で、サタンの目もくらむような恐怖の存在を打ち砕くことができます。OIC、日本を自由にするために、イエスの力によって行きましょう！イエスの福音を伝えるために.....素晴らしいのちのことばを！

**祈りましょう！**

#### 参考文献

{ } - Pastor Bruce's added notes for clarity わかりやすくするためにブルース牧師が付け加えた注釈

CEV - Contemporary English Version Copyright © 1995 by American Bible Society For more information about CEV, visit [www.bibles.com](http://www.bibles.com) and [www.cev.bible](http://www.cev.bible).

EBC - Expositor's Bible Commentary (Abridged Edition): New Testament  
Copyright 2004.

MOUNCE - both Translation, Copyright ©2011 by William D. Mounce.

& *Mounce Concise Greek-English Dictionary of the New*

*Testament* edited by William D. Mounce. /[Free Greek dictionary](http://Free Greek dictionary), [BillMounce.com](http://BillMounce.com).

NASB - New American Standard - 1995 Edition, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995 by [The Lockman Foundation](http://The Lockman Foundation).

TLB- The Living Bible copyright © 1971 by Tyndale House Foundation. Used by permission of [Tyndale House Publishers, Inc.](http://Tyndale House Publishers, Inc.), Carol Stream, Illinois 60188. All rights reserved.

EBC - Expositor's Bible Commentary (Abridged Edition): New Testament  
Copyright 2004.